

\*\*\*\*\*



# けやき

令和3年

# 4月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

\*\*\*\*\*

## 継続と検証で新たなスタートを

校長 渡辺 明

春爛漫、今年も暖かな陽気に早々と桜も咲き、今はシンボルのけやきの緑が増えています。昨年度は臨時休業の幕開けでしたが、今年は穏やかに新年度が始まりました。校長として迎えた2年目の春に、今年も「オール大宮北小」の一員として教育活動を推進していけることを嬉しく思っています。新たに57名の新入学児童を迎え、296名の児童と共にスタートです。この4月に加わった12名を含めた41名のスタッフで、学校教育目標である「未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む」の具現化のため、情熱をもって指導にあたっています。

さて、新型コロナウイルス感染症はまだ収束の見通しがつかず、学校生活における制限もひきつづき必要です。「マスク・手洗い・換気・3密回避」の基本を大切に、感染拡大予防を継続していきますが、単に継続していただくだけではなく、新たな検証の必要性も実感しています。

昨年度の諸活動は、一言で表現すれば「我慢」でしたが、その中でも様々な「できること」を子どもたちと共に模索した一年間でした。これまで取り組んできたものと、昨年度アレンジしたものを比較検証して、もしも昨年度の取組の方が効果的であったり、合理的であったりするものがあれば、それをスタンダードとすることも考えるべきだと思います。「コロナに打ち勝つ」という言葉をよく聞きますが、真に「打ち勝つ」ことは、もとに戻ることではなく、前に進むことではないかと感じています。

また、一人一台のタブレットも導入されました。これから計画的に本格運用を進めていきますが、これも実践を重ねながら、教育効果を検証していく必要があります。例えば、漢字の書き取り練習は従来ドリル教材を使用していましたが、そこにタブレット教材という選択肢が増えます。しかし当然のことですが、その使い勝手は違います。また、低学年の時期には、鉛筆の持ち方や筆圧などの指導も行いますので、どこまでをデジタル化すべきか難しいところです。紙と鉛筆で行う場合、タブレットと指書きで行う場合、タブレットとタッチペンで行う場合、それぞれの発達段階との兼ね合いなどを検証しながら、最適解を求めていくことが大切です。せっかくの有効な学習ツールですから、より効果的に活用していきたいと思えます。

今年度も地域の皆様、保護者の皆様のあたたかなご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

### <学校経営方針>

- 1 よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動を展開する。
- 2 教師の指導力の向上を図り、「アクティブ・ラーニング」の視点で、学び方が身につく授業実践に取り組む。
- 3 道徳教育・教育相談・特別支援教育等の取組から日常の指導と人間関係づくりに努め、心豊かな児童の育成を図る。
- 4 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと、セーフコミュニティの取組を通じた「自助・共助」の意識の育成を図る。
- 5 コミュニティ・スクールを見据えて、学校・家庭・地域の連携・協働を深め、「オール大宮北小」の具現化を図る。

### <目指す児童像>

- ◇進んで学ぶ子 ・教師の話をよく聴く。 ・わかるまで、できるまで努力する。
- ◇思いやりのある子 ・共に協力し、感謝の気持ちをもつ。 ・いじめや差別をしない、させない。
- ◇明るく元気な子 ・心のこもった挨拶ができる。 ・具体的なめあてにチャレンジできる。